

2040 ~ 2050

SA-6

感覚が共有できる技術により、災害時だけでなく平時でもタイムリーに意思疎通し、障がいの有無や子ども・高齢者などを問わず平等に安心が担保される

概要

感覚共有技術によって、五感が共有できるようになることで、災害発生時に視覚や聴覚を共有でき、高齢者や身体障がいのある方にも適切かつ迅速な情報発信、避難指示が可能となる。地震や豪雪などによって家屋の倒壊に巻き込まれてしまった場合には、被災者自らが感覚共有を行うことで、自身の状況や被災場所を周囲の人に伝えることができ、迅速な救助につながる。

また、平時においても、子どもや高齢者、障がいのある方がこの技術を活用して自らの感覚を発信することでよりスムーズな意思疎通を図ることができるなど、県民皆が安心して暮らせる鳥取県となる。

変化のポイント(商品・サービス/価値観・行動/業界/などの変化)

いままでは

災害時において、意思疎通が難しい人は避難が困難



これからは

災害時の意思疎通が、感覚共有により誰でも容易になる